

科目	週時数
古典探究	2 時間

目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
	知識技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
	思考判断表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
	主体性協働性多様性	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	【古文／説話】『宇治拾遺物語』『十訓抄』 【漢文／故事・逸話】「知音」「画竜点睛」 【古文／随筆】『枕草子』『方丈記』 【漢文／史伝】『史記』	・我が国古来の文章を読み、日本語による言語表現の特色、我が国固有の文化的連続性を理解する。 ・教科書所収の文章を素材に、言語活動を行い、実践的な言語運用能力を養う。 ・問題演習を通して、実践的な読解スキルの向上をはかる。
2 学期	【古文／物語】『源氏物語』 【漢文／故事・逸話】『史記』 【古文／日記、物語】『更級日記』 【漢文／思想】「不忍人之心」「人之性悪」「侵官之害」	・古今の文学的な文章を読み、日本語による言語表現の特色、我が国固有の文化的連続性を理解する。 ・教科書所収の文章を素材に、言語活動を行い、実践的な言語運用能力を養う。 ・問題演習を通して、実践的な読解スキルの向上をはかる。

授業の形態	一斉授業、グループワーク等
主たる教材	『古典探究古文編』『古典探究漢文編』(大修館書店)
副教材	『これからの古典文法(改訂版)』『漢文学習必携』『完成 古典』『核心古文単語351』等
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	小テスト、レポート、課題に沿ったプレゼンテーション等を随時実施。

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	随時実施
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	的確な授業理解のもと、学習の手引の内容を自らのことばで明快に他者に説明することができる
	60%	授業内容を的確に理解することができ、学習の手引の問いを解ける

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
国語研究(設定)	2 時間

目標	実社会において必要となる、文章を論理的に書いたり批判的に読んだりする資質・能力を養う。	
	知識技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
	思考判断表現	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
	主体性協働性多様性	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	【評論】「話しかける言葉」 【小説】「ボッコちゃん」 【評論】「触覚の論理」 【小説】「銀の匙」 【評論】「ふたつの誤り」 【小説】「満月」	・論理的な文章、文学的な文章を読んで、筆者の着眼点、論理展開や表現の特色を理解する。 ・教科書所収の文章を素材に言語活動を行い、実践的な言語運用能力を養う。 ・問題演習を通して、実践的な読解スキルの向上をはかる。
2 学期	【評論】「東京タワー」 【小説】「ふたり」 【評論】「現実に噛みつかれながら」 【小説】「唇に小さな春を」 【評論】「完成は磨けるか」 【小説】「闇の絵巻」	・論理的な文章、文学的な文章を読んで、筆者の着眼点、論理展開や表現の特色を理解する。 ・教科書所収の文章を素材に言語活動を行い、実践的な言語運用能力を養う。 ・問題演習を通して、実践的な読解スキルの向上をはかる。

授業の形態	一斉授業、グループワーク等
教科書	『ちくま評論入門』『ちくま小説入門』(ちくま書房)
副教材	『改訂版 ほんものの力がつく現代語練習帳 このは』『論理力ワークノート』『新実践 入試漢字演習』等
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	小テスト、レポート、課題に沿ったプレゼンテーション等を随時実施。

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	随時実施
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	的確な授業理解のもと、学習の手引の内容を自らのことばで明快に他者に説明することができる
	60%	授業内容を的確に理解することができ、学習の手引の問いを解ける

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
公共	2 時間

<b>目 標</b>	倫理、政治・経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べさせる。現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向け公正に判断したりして、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を育むさせる。国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に主体的に取り組ませる。	
<b>育 っ たい 力</b>	<b>知識 技能</b>	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
	<b>思考 判断 表現</b>	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
	<b>主体性 協働性 多様性</b>	現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	第1章 公共的な空間をつくる私たち 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第3章 公共的な空間における基本原理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年期は自立や自律をはかる重要な時期であることを理解できている。</li> <li>・先哲の思想や宗教が自分自身の生き方に与えている影響に気付くことができている。</li> <li>・近世、近代、現代の世界の思想家の思想内容が理解できる。</li> <li>・民主政治のあゆみが理解できている。</li> <li>・選択判断の手掛かりとなる考え方を使得、現代の諸課題を主体的に追究できている。</li> <li>・日本国憲法の基本原理に基づいた社会のあり方について、自分なりに構想できている。</li> </ul>
2 学期	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義 第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方 第6章 国際社会の動向と日本の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国憲法に見られる三権相互の関係とそれぞれの役割が理解できている。</li> <li>・選挙のしくみが理解できている。</li> <li>・政党の役割を理解できている。</li> <li>・現代の企業の果たしている役割が理解できている。</li> <li>・金融財政のしくみを理解し、経済状況に応じて適切な手段を提示できている。</li> <li>・国連の現状と課題について考察できている。</li> <li>・発展途上国の貧困飢餓や国際社会における日本の役割について関心が持てている。</li> </ul>

<b>授業の形態</b>	一斉授業 グループ学習 ペア学習
<b>教科書</b>	『新版 公共』(数研出版)
<b>副教材</b>	公共整理ノート(数研出版)、ズームアップ公共資料(実教出版)
<b>評価の方法</b>	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
<b>備考</b>	ICTの活用、アクティブラーニングを取り入れる。

<b>到達目標</b>	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する。
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す。
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する。
	④準備	必要な物品を確実に準備する。
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む。

<b>知識・技能分野の到達目安</b>	80%	教科書と社会的事象を関連付けて理解し、説明することができる
	60%	教科書の重要語句の関連性を理解する

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
数学Ⅱ、数学Ⅲ	5 時間

目 標	指数関数・対数関数、微分と積分、関数と極限、微分、微分とその応用、積分とその応用について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。さらに、発展的な問題に対して、既習事項を基に自ら解決する力を育てる。	
	知識技能	数学的活動を通して、指数関数・対数関数、微分と積分、関数と極限、微分、微分とその応用、積分とその応用における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。また事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決する。
	思考判断表現	数学的活動を通して、指数関数・対数関数、微分と積分、関数と極限、微分、微分とその応用、積分とその応用における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的にとらえ、論理的に考察し、表現するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考える。
育 たい 力	主体性協働性多様性	自ら課題を見だし、解決するための構想を立て、考察・処理し、その過程を振り返って得られた結果の意義を考え、それを発展させることができる。自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにし、ICTを活用し、説明したり、議論したりすることができる。学習した内容を生活と関連付け、具体的な事象の考察に活用することができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	【数学Ⅱ】 ○指数関数・対数関数 ○微分と積分  【数学Ⅲ】 ○関数と極限	○指数関数のグラフを理解し、方程式・不等式が解ける。 ○対数関数のグラフを理解し、方程式・不等式が解ける。 ○微分係数、導関数の定義・意味を理解し、計算・活用できる。 ○導関数を用いて、関数の増減および極大・極小を調べ、グラフが描ける。 ○不定積分・定積分について理解できる。 ○定積分によって平面図形の面積が計算できる。 ○分数関数、無理関数、合成関数、逆関数についての性質を理解する。無限数列、無限級数及びその和、関数の連続について学ぶ。
2 学期	○微分 ○微分の応用 ○積分とその応用	○微分法の基本的な公式を理解し適切に利用できる。 ○関数の増減に着目し、その変化に応じた処理ができる。 ○積分法の基本的な公式を理解し適切に利用できる。

授業の形態	一斉授業、グループ学習
教科書	『数学Ⅱ Advanced』(東書 数Ⅱ 701) 『数学Ⅲ Advanced』(東書 数Ⅲ 701)
副教材	Hi-PRIME 数学Ⅱ+B(東書) チャート式基礎からの数学Ⅱ+B(数研) Hi-PRIME 数学Ⅲ(東書) チャート式基礎からの数学Ⅲ+C(数研)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト・課題の提出物・授業態度等)による総合評価
備考	演習の時間とその内容を説明する時間を多く設定する

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書の練習問題B、副教材「Hi-PRIME」の完全理解
	60%	教科書の例題・問・問題・練習問題Aの完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
数学B	2 時間

目 標	数列および統計的な推測について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。さらに、発展的な問題に対して、既習事項を基に自ら解決する力を育てる。	
	知識技能	数学的活動を通して、数列および統計的な推測における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の技能を身につけ、的確に問題を解決できる。
	思考判断表現	数学的活動を通して、数列および統計的な推測と統計的な推測における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的に捉え、論理的に考察するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考え、表現できる。
	主体性協働性多様性	自ら課題を見だし、解決するための構想を立て、考察・処理し、その過程を振り返って得られた結果の意義を考え、それを発展させることができる。自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにし、ICTを活用し、説明したり、議論したりすることができる。学習した内容を生活と関連付け、具体的な事象の考察に活用することができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	○数列 ○統計的な推測	○数列の概念、記号 $\Sigma$ の意味と性質を理解できる。 ○階差数列から一般項を求めたり、数列の和から一般項を求めたりすることができる。 ○帰納的定義について理解し、漸化式を扱うことができる。数学的帰納法を利用して、等式などの証明ができる。 ○確率分布について理解を深め、統計的な処理ができるようになる。
2 学期	○統計的な推測 ○ベクトル	○正規分布を利用した仮説検定の考え方を理解し、母平均および母比率に関する主張について仮説検定することができる。 ○ベクトルの成分表示、ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解し、様々な場面に应用することができる。 ○位置ベクトル、ベクトル方程式について理解する。また、点の位置や図形の性質、条件を満たす点の存在範囲などについて考察することができる。

授業の形態	一斉授業、グループ学習
教科書	『数学B Advanced』(東書 数B 701)『数学C Advanced』(東書 数C 701)
副教材	Hi-PRIME 数学II+B(東書) チャート式基礎からの数学II+B(数研) Hi-PRIME 数学C(東書)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	演習の時間とその内容を説明する時間を多く設定する

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書の練習問題B、副教材「Hi-PRIME」の完全理解
	60%	教科書の例題・問・問題・練習問題Aの完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
物理	3 時間

<b>目 標</b>	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。	
<b>育 っ たい 力</b>	<b>知識 技能</b>	物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めることで、自らで課題を見つけ、考え、見通しをもって主体的かつ意欲的に観察、実験などに取り組む。
	<b>思考 判断 表現</b>	自然の事物・現象に関する基本的な原理・法則を系統的に理解し、自然を探究する能力と態度を身につけさせ、他科目の学習成果とも関連させて、自然界の事物・現象を分析的、総合的に考察する能力を育成する。
	<b>主体性 協働性 多様性</b>	物理的な事物・現象に対して、興味・関心を高め、知的好奇心をもって問題を見出し、主体的に解決しようとする意欲を高める。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	第1編 力と運動 (平面の運動、力のモーメント、運動量と力積と反発係数、円運動、万有引力、単振動) 第2編 熱 (気体分子と熱運動、熱機関と熱力学第2法則、モル比熱)	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動とエネルギーについての基礎的な考え方に基づき、原理・法則を系統的に理解して、それらを活用できるようになる。特に、熱に関する現象を観察、実験などを通して探究し、共通する基本的な概念や法則を、日常生活や社会と関連付けて系統的に理解する。</li> <li>授業で扱うプリントを元に学習のペースを作り、一つ一つ着実に理解する。</li> </ul>
2 学期	第3編 波(波の性質、音、光) 第4編 電気と磁気(電界と電位)	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動とエネルギーについての基礎的な考え方に基づき、物体の運動の観察などを通して探究し、原理・法則を系統的に理解して、それらを活用できるようになる。特に、水面波、音、光、電気などの現象を観察、実験などを通して探究し、共通する基本的な概念や法則を、日常生活や社会と関連付けて系統的に理解する。</li> <li>授業で扱うプリントを元に学習のペースを作り、一つ一つ着実に理解する。</li> </ul>

<b>授業の形態</b>	一斉授業
<b>教科書</b>	『物理』(東京書籍)
<b>副教材</b>	セミナー物理基礎+物理(第一学習社)、(オンライン教材)Libly(Libry)
<b>評価の方法</b>	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
<b>備考</b>	特になし

<b>到達目標</b>	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

<b>知識・技能分野の到達目安</b>	80%	「セミナー物理」の基本問題の理解、『物理のStairs』(問題プリント群)の裏面の理解
	60%	「セミナー物理」のプロセスの理解、『物理のStairs』(問題プリント群)の表面の理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
化学基礎、化学	5 時間

目 標	化学は物質について学習する教科であることを理解し、化学的な事物・現象に関する基本的な原理・法則を理解するとともに、身の回りの事物・現象を化学的に探究する方法を身につける。	
	知識 技能	基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を身につけることができる。 化学現象について、学習した知識を基に、定量的かつ定性的に扱うことができる。
	思考 判断 表現	実験結果のデータや表を基にして、化学現象を客観的にとらえることができる。 化学現象について、原子・分子レベルで考え、他者にわかりやすく説明できる。
	主体性 協働性 多様性	目的意識をもって観察、実験を行ない、化学的に探究する能力と態度を身につけることができる。 主体的に課題に取り組むことにより、興味・関心を高めることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	(化学基礎) ・原子の構造と元素の周期表 ・化学結合 ・物質と化学反応式 ・酸と塩基 ・中和反応 ・酸化還元反応 (化学) ・気液平衡と蒸気圧 ・気体の性質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学結合のしくみと性質について深く学び、物質の成り立ちを理解する。</li> <li>・原子、分子などの個数をひとまとめとして扱う方法、および、化学反応における量的関係について理解する。</li> <li>・酸、塩基の定義について、歴史的な背景を考慮しながら理解し、酸、塩基が私たちの日常生活と深く関わっていることを理解する。</li> <li>・中和滴定の実験を通して、正確な数値を測ることの重要性を理解する。また、器具の使い方を正確に理解する。</li> <li>・身のまわりで起こる多くの反応は、電子のやり取りが重要な役割を果たし、それが酸化還元反応であることを理解する。</li> </ul>
2 学期	(化学) ・溶液の性質 ・物質とエネルギー ・電池・電気分解 ・化学反応の速さ ・化学平衡 ・非金属化合物について ・典型金属元素について ・遷移元素について ・金属イオンの定性分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沸点上昇・凝固点降下については、計算問題だけでなく、現象を理解し、簡潔に説明できる能力も身につける。</li> <li>・基本的な熱化学方程式を正確に書けるようにする。エネルギー図をかけるようにする。</li> <li>・平衡状態の量的な関係は、表を作成できるようにする。</li> <li>・緩衝液の仕組み、加水分解定数と電離定数、イオン積の関係を理解する。</li> <li>・非金属は、ハロゲン・硫黄・窒素化合物を中心に基礎知識を身につけ、重要化合物の工業的製法を説明できる。</li> <li>・金属は、両性元素・イオン化傾向と関連させながら、各金属元素の性質を理解することができる。</li> <li>・水溶液中の陽イオンを分離分析できる。</li> <li>・溶解度積と関連させながら沈殿反応を理解する。</li> </ul>

授業の形態	一斉授業
教科書	『化学基礎』(数研出版) 『化学』(数研出版)
副教材	セミナー化学基礎化学(第一学習社)サイエンスビュー化学総合資料(実教出版) 福間の無機化学(旺文社)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達 目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	「セミナー化学基礎化学」の発展問題の完全理解
	60%	「セミナー化学基礎化学」の基本問題の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
生物	3 時間

<b>目 標</b>	生物や生物現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。	
	<b>知識技能</b>	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解する。
	<b>思考判断表現</b>	多種多様な生物現象についての観察・実験などを行い、それらの探究活動を通して、生物や生物現象に関する体系的な知識を得たり、生物学的に探究する能力や態度・方法を身につける。
	<b>主体性協働性多様性</b>	自然現象に対して興味・関心を高め、疑問点を主体的に見出そうとする意欲をもつ。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物の進化</li> <li>・生物の系統と進化</li> <li>・細胞と分子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命の誕生から進化の流れを、遺伝子の変化と関連づけて理解する。また、進化のしくみが遺伝子頻度の変化によって生じることもモデル実験を通して理解する。</li> <li>・生物を構成する元素や物質、細胞構造について関心を持ち、その働きと構造を理解する。</li> <li>・進化の起こる要因や、その道筋・系統関係を理解する。種分化が生じる要因を理解する。</li> <li>・生物は系統にもとづいて分類できることを理解し、分類の階級について理解する。</li> </ul>
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遺伝情報とその発現</li> <li>・遺伝子を扱う技術とその応用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DNAの構造や遺伝のしくみに関心をもつ。</li> <li>・遺伝子発現のしくみについて理解する。</li> <li>・カエルやショウジョウバエの発生における遺伝子発現調節のしくみを中心に理解する。</li> </ul>

<b>授業の形態</b>	一斉授業 グループ学習 ペア学習
<b>教科書</b>	『高等学校 生物』(第一学習社)
<b>副教材</b>	最新図説生物(第一学習社) ニューグローバル生物(東京書籍)
<b>評価の方法</b>	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
<b>備考</b>	調べ学習を取り入れる 実験や観察を取り入れる

<b>到達目標</b>	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

<b>知識・技能分野の到達目安</b>	80%	「ニューグローバル生物基礎・生物」の発展問題の完全理解
	60%	「ニューグローバル生物基礎・生物」の基本問題の完全理解

※80%=80点を取るための目安。



科 目	週 時 数
体育	2 時間

目 標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動の技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。	
	知識技能	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基本的な事項を理解し、知識を身につける。また、自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の技能を高める。
	思考判断表現	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫する。
	主体性協働性多様性	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身につけるとともに、健康・安全に留意して自ら計画的に運動をしようとする。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	体づくり運動、新体力テスト *組体操(徒手体操)、体育祭の練習 体育理論 陸上(ハードル) バレーボール バドミントン ソフトボール	<ul style="list-style-type: none"> <li>•運動を通して自分や仲間のからだや心の状態に気づき、からだの調子を整えたり、仲間と楽しく交流する。</li> <li>•ハードル走ではスピードを維持した走りからハードルを低くリズムカルに越すことができる。</li> <li>•ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。</li> <li>•ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作、連携した守備などによって攻防を展開する。</li> <li>•安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。</li> </ul>
2 学期	体育理論 バスケットボール サッカー 卓球	<ul style="list-style-type: none"> <li>•運動技術と運動技能の違いを知り、それぞれの運動種目に応じた運動技術について理解する。</li> <li>•ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。</li> <li>•ゴール型では状況に応じたボール操作と空間を埋める動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。</li> <li>•安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。</li> </ul>

授業の形態	一斉授業 グループ学習
教科書	『高等学校保健体育』(第一学習社)
副教材	ステップアップ高校スポーツ(大修館)
評価の方法	実技試験と体育レポート、定期試験(種目の歴史とルール)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	実技では規定の技能を正確に行う。筆記試験はルールや歴史を理解する。
	②実技テスト	競技の特性を理解し、指示されたポイントを踏まえて取り組み満点を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	規定の服装で授業を受けること
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科 目	週 時 数
保健	1 時間

目 標	心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践できるような意欲を育てる。 現代社会と健康についての課題解決に役立つ知識を身につけ、適切な意思決定と行動選択できる力を育て健康的なライフスタイルを身につける。	
	知識 技能	個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身につける。
	思考 判断 表現	個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断する力を育てる。
	主体性 協働性 多様性	個人生活や社会生活における健康・安全に関心を持ち、生涯にわたって自らの健康を適切に管理する方法などについて意欲的に取り組む。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	第3章【生涯を通じる健康】 第1節 生涯の各段階における健康 第2節 労働と健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯にわたって健康を保持・増進するために、人生の各段階における健康の危険因子について理解する。</li> <li>・思春期の健康課題、性行動について理解を深める。</li> <li>・結婚の意義と家庭の機能、新しい生命の誕生について理解を深める。</li> <li>・労働と健康の関わりについて理解を深める。</li> <li>・労働者の健康・安全をまもるために、わが国で行われている施策について知るとともに、自らが取るべき対策についても理解する。</li> </ul>
2 学期	第4章【健康を支える環境づくり】 第1節 環境・食品と健康 第2節 保健・医療制度と機関 第5章 スポーツの文化的特性と現代スポーツの発展 第6章 運動やスポーツの効果的な学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健行政の施策・保険活動、医療制度の仕組みやサービス・役割について理解を深め、医薬品の有効性と危険性を踏まえ、安全に使用するための知識について理解する。</li> <li>・世界でのスポーツの歴史(起源と変遷)を知るとともに、現代のスポーツが国際交流や国際平和と大きな役割を果たしていることについて理解する。</li> <li>・運動を通して自分や仲間のからだや心の状態に気づき、体の調子を整えたり、仲間と楽しく交流する。</li> <li>・ドーピングがスポーツや健康に与える影響について理科を深める。</li> <li>・運動技術と運動技能の違いを知り、それぞれの運動種目に応じた運動技術についての理解を深め、また運動技能の上達過程は、基礎的な運動技能の習得から、その修正、改善を経て種々の変化に対応できる高度なものへ発展することへの理解を深める。</li> <li>・体力の意義を知り、自らの体力を知ることの重要性や体力を高めるための方法についての理解を高める。また、運動の実施にあたって、スポーツ外傷・障害などを引き起こさないために、様々な配慮が必要であることについての理解を深める。</li> <li>・体力を構成する要素を知り、運動と体力の関係についての理解を深める。</li> </ul>

授業の形態	一斉授業 グループ学習
教科書	『高等学校保健体育』(第一学習社)
副教材	保健体育ノート(第一学習社)
評価の方法	定期試験と平常点(課題の内容・提出状況、授業態度)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科 目	週 時 数
英語コミュニケーションⅡ、Ⅲ	4 時間

目 標	日常的または社会的な話題について、使用される語句や文、情報量、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを論理性に注意して理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。	
	知識 技能	英語コミュニケーションⅠで育てたい知識・技能と同様とする。 1. 指導する語: 英語コミュニケーションⅠで学習した語に加えた 700 ~ 950 語程度の新語 2. 文法事項: 英語コミュニケーションⅠで示された文法事項の中から、五つの領域別の目標を達成するのにふさわしいもの
	思考 判断 表現	具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に適切な英語で表現する力
育 て た い 力	主 体 性 協 働 性 多 様 性	1. 外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度 2. 外国語を通じて積極的に人や社会と関わり、自己を表現するとともに他者を理解するなど互いの存在について理解を深め、尊重しようとする態度

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	Unit 2	価値観・健康・環境・余暇活動をテーマとした探究的学習及びコミュニケーション活動 <聞くこと> 勧誘と対応を聞き取る <読むこと> ウェブ記事・新聞記事・ガイドブック・図鑑を読み取る <話すこと> 主張と根拠を伝え合う 複数のものを対照しながら話す <書くこと> 資料を活用して書く 割合を表す
	Unit 3	
	Unit 4	
	Unit 5	
	Unit 6	
	関連英文を用いた学習	
2 学 期	Unit 7	メディア・教育・社会の変化をテーマとした探究的学習及びコミュニケーション活動 <聞くこと> 質問と答え・助言を聞き取る <読むこと> 提案とその理由を読み取る 話の意味を推測する <話すこと> 事実と意見を分けて伝える 相手の意見に適切に応じる <書くこと> 構成を意識して複数のパラグラフを書く
	Unit 8	
	Unit 9	
	Unit 10	
	英語コミュニケーションⅢ Unit 1	

授業の形態	一斉授業 調べ学習 ペア学習 グループ学習
教科書	ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION II・III (東京書籍)
副教材	WORDBOX Advanced (美誠社) 英文法・語法Vintage(いっぴずな書店) その他
評価の方法	定期試験・パフォーマンステスト・小テスト・提出課題
備考	4技能5領域全体の習熟度を評価対象とする

到 達 目 標	①定期試験	範囲内の学習内容を理解し、初見英文にも十分に対応できること
	②小テスト	WORDBOX Advancedを用いた小テスト
	③提出物	スライド・スピーチ動画・オリジナルスクリプトなど
	④準備	必要な物品を準備
	⑤学習態度	自律的・主体的にコミュニケーション活動に取り組む学習態度

知識・技能分野 の到達目安	80%	CEFR B1
	60%	CEFR A2

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
論理・表現Ⅱ	2 時間

<b>目 標</b>	日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、一つの段落の文章、序論・本論・結論の構成に従った複数の段落の文章などを通して、論理の構成や展開を工夫して話したり書いたりして伝える、または伝え合うことができる能力を養う。	
<b>育 っ て たい 力</b>	<b>知識 技能</b>	<話すこと> 相手の理解や賛同を得るために行うスピーチ・プレゼンテーション 自らの主張を相手の主張と対比させながら、相手や聴衆を説得しようとするディベート 相手とのやり取りを通して、課題解決を目指すディスカッション <書くこと> 要点を目的に応じた項目立てをしなが相手に分かりやすいように整理し、概念の定義や具体例などを適宜加えながら情報を詳細に伝える説明文 特定の意見や主張を掲げ相手を説得するため、説明文に自分の主張を組み入れた論証文
	<b>思考 判断 表現</b>	1. 日常的な話題や社会的な話題について、英語で聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら、話したり書いたりして情報や自分自身の考えなどを適切に表現する力 2. 日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして、要点や意図などを明確にしなが、情報や自分自身の考えなどを伝え合う力
	<b>主体性 協働性 多様性</b>	知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、自らの学習を調整しようとする力

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	1st Zone Lesson1 ~ Lesson3 *それぞれのLessonを2時間で学習  2nd Zone Lesson4 ~ 6 *それぞれのLessonを2時間で学習  3rd Zone Lesson7~9 *それぞれのLessonを2時間で学習	1st Zone * 自分の将来のことや、学校・家庭での出来事について、主語と動詞の使い方に注意しながら話したり書いたりして、適切に表現する * 適切な時制・不定詞・助動詞を用いて表現する  2nd Zone * 自分の体験や現代社会について、形容詞や関係詞で情報を加えなが話したり書いたりして、適切に表現する  3rd Zone *人間生活について、副詞で様々な情報を加えなが話したり書いたりして、適切に表現する
2 学期	4th Zone Lesson10 ~ Lesson12 *それぞれのLessonを3時間で学習  5th Zone Lesson13 ~ 15 *それぞれのLessonを3時間で学習	4th Zone * 日本のことや、社会の現状や未来について、比較の表現や仮定法を使いなが話したり書いたりして、適切に表現する  5th Zone * 観光と日本社会の関係や、食と健康の関係、さらには世界が抱える問題とSDGsについて、英語らしい表現を意識しながら話したり書いたりして、適切に表現する

<b>授業の形態</b>	一斉授業 調べ学習 ペア学習 グループ学習
<b>教科書</b>	be Smart English Logic and Expression II (いいずな書店)
<b>副教材</b>	My English Portfolio (いいずな書店) 英文法・語法Vintage(いいずな書店) その他
<b>評価の方法</b>	定期試験・パフォーマンステスト・小テスト・My English Portfolioを始めとした提出課題
<b>備考</b>	2技能3領域を中心とした発信能力の習熟度を評価対象とする

<b>到達目標</b>	①定期試験	範囲内の学習内容を理解し、初見英文にも十分に対応できること
	②小テスト	新出語句及び言語材料を範囲とした小テスト
	③提出物	My English Portfolio・発表動画・オリジナルスクリプトなど
	④準備	必要な物品を準備
	⑤学習態度	複数の領域を結び付けた統合的な言語活動に自律的・主体的に取り組む学習態度

<b>知識・技能分野の到達目安</b>	80%	CEFR B1
	60%	CEFR A2

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
情報 I	2 時間

目 標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。	
育 っ て たい 力	知識 技能	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。
	思考 判断 表現	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。
	主体性 協働性 多様性	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス</li> <li>序章 なぜ情報について学ぶのか</li> <li>第 I 章 情報社会の問題解決                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の特性・メディアの特性</li> <li>・問題解決の考え方</li> </ul> </li> <li>・法の重要性の意義                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報</li> <li>・情報</li> <li>・情</li> <li>・情</li> </ul> </li> <li>社会と情報セキュリティ</li> <li>社会の発展による生活の変化</li> <li>報技術の発展による社会の変化</li> <li>第2章 コミュニケーションと情報デザイン                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアとコミュニケーション</li> <li>・情報のデザイン化</li> <li>・情報デザイン</li> <li>・技法 (HTMLとCSS)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報について学ぶ意義を理解する</li> <li>・「情報 I」で学ぶ内容を理解する。</li> <li>・教科書のチェックリストを利用して、既習事項に対する到達度を自己評価できる。</li> <li>・目的や状況に応じて、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法について考えることができる。</li> <li>・情報に関する法規や制度およびマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて、それらの背景を科学的に捉え、考えることができる。</li> <li>・日々の生活の中でソーシャルメディアにどのように関わっているか理解できる。</li> </ul>
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3章 コンピュータとプログラミング                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータの仕組み                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・アルゴリズムとプログラミング</li> <li>・モデル化とコミュニケーション</li> <li>・技法 (python)</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>第4章 情報通信ネットワークとデータの活用                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報通信ネットワークのしくみ</li> <li>・情報システムとデータベース</li> <li>・データの活用・技法 (pythonによる分析)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータを構成する各装置とデータの流れと制御の流れを表現し、説明することができる。</li> <li>・論理回路を組み合わせたものから自分で真理値表を作成できる。</li> <li>・簡単な事例について、コンピュータに処理させる手順を文章化できる。</li> <li>・アルゴリズムを図や表で表現し、可視化できる。</li> <li>・プログラムを用いて、目的に応じたモデル化やシミュレーションを適切に行い、その過程を評価し改善することができる。</li> <li>・データ分析の結果から読み取れる情報を判断できる。</li> </ul>

授業の形態	PC一人1台環境による実習を交えた授業
教科書	「情報 I」(日本文教出版)
副教材	「情報 I」映像でわかる共通テスト対策問題集
評価の方法	定期試験および毎時間の実習による提出物
備考	

到達 目 標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	「情報 I 問題集」の基本事項の完全理解
	60%	「情報 I 問題集」の実践問題の完全理解

※80%＝80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
聖書(設定)	1 時間

目 標	人類の遺産である聖書の基本的知識及び価値観を学び、グローバル社会で公共の精神に生きる力を育てる。	
	知識 技能	歴史的、社会的背景を踏まえて本文を正しく理解する。 2000年の歴史を経ての今日的意義を探究する。
	思考 判断 表現	自分も含めた様々な人々から社会が形成されていることを知り、いかに共生するかを考える。 神の前で人間は有限であるが、同時に有意味である自己肯定感を促す。
	主体性 協働性 多様性	異なった考えを積極的に捉え、これまでの自分の価値観と対比し生きる糧とする。 仲間と聖書を読み合うことで、全体の共同性を確認する。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教史を学ぶ意味</li> <li>・キリスト教の源</li> <li>・時のみちるにおよんで</li> <li>・信仰の戦い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聖書を学ぶ、必要性を知る。</li> <li>・伝統の中に多くの人々の犠牲と奉仕があることを知る。</li> <li>・3校祖と3L精神を学び、学院生としての自覚を促す。</li> <li>・教会の礼拝と、学校の礼拝の違いを知る。</li> <li>・イエス・キリストの生涯と、新約聖書の概観を知る。</li> <li>・無意識で取り組んでいた日本の「宗教」を理解する。</li> <li>・本来あるべき、神との関係性について知る。</li> <li>・本来あるべき、隣人との関係性について知る。</li> </ul>
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教会の基礎づくり</li> <li>・世俗の権力と結ばれた教会</li> <li>・新しい時代の準備</li> <li>・皇帝の上に立つ教皇</li> <li>・聖地に向かう十字軍の騎士</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聖典と信条の成立。</li> <li>・公会議開催による成立過程。</li> <li>・修道院の設立。</li> <li>・教会と国家との関係。</li> <li>・権力集中の中での聖地奪還。</li> </ul>

授業の形態	一斉授業
主たる教材	聖書
副教材	キリスト教の歴史
評価の方法	定期試験、提出物、小テストによる総合評価
備考	特になし

到達 目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科 目	週 時 数
3L希望学 I	1 時間

<b>目 標</b>	ESDとキャリア学習を通して、主体的、創造的、協働的に課題に取り組む力を育み、加えて未来を展望して、自らの使命を考える。	
<b>育 っ た い 力</b>	<b>知識技能</b>	世界にある様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの解決につながる新たな価値観、行動を生み出すこと、それによって持続可能な社会の創り手となることができるように教科学習や探究活動を通して得た知識を組み合わせることができる力を養う。
	<b>思考判断表現</b>	個人またはグループごとに仮説を立案し、その検証のために調査し、討議し、まとめ、発表し、行動する学習活動を通して、探究する力を養う。
	<b>主体性協働性多様性</b>	自分の興味関心や希望進路に沿って設定した課題について、その解決のために何が必要か、どうしたらよいか、自分に何ができるかを級友たちと協働的・探究的に学ぶことを通して、社会の中での自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく力を養う。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	「課題研究」	自分の興味関心や希望進路に沿って課題を設定し、その解決の方向性について考える。 また、仮説立案とその検証、課題解決の方法について考え、探究のプロセスの理解を深める。
2 学 期	「課題研究」	個人の興味関心に応じて課題を設定し、課題探究を進め、プレゼンテーションにまとめ発表することを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す。

<b>授業の形態</b>	一斉授業 講演 グループ学習 ワークショップ 個人の探究活動
<b>教科書</b>	なし
<b>副教材</b>	なし
<b>評価の方法</b>	学習記録、報告・作品(レポート、発表など)の内容や提出状況、ルーブリックによる自己評価・相互評価
<b>備考</b>	特になし

<b>到達目標</b>	①定期試験	なし
	②小テスト	なし
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	自分の興味関心と社会のあり方の関係について考え続ける態度を理想とする